

○口腔病理学：616-3-DP3・DP4・DP7

年次	学期	学則科目責任者
3年次	後学期	*久山 佳代（病理学）

学修目標（GIO）と単位数	・単位数：3 ・学修目標（GIO）：疾病は生体の機能や構造、あるいはその両方が正常範囲から逸脱した現象であり、その原因を「病因」、出した状態が「病態」と言い表すことができる。病理学を学ぶ者は、種々の疾病を総合的に理解する必要がある、そのためには病因・病態、ならびにそれらを結び付けている過程・経過における変化や現象（病変）を考究しなければならず、この理解をなくしては医療・歯科医療が成立しない。さらに、疾病を理解する知識・思考法は基礎医歯学から臨床医歯学への橋渡しとなる。この科目では、疾病の本態を理解するために、その成り立ちや理論に関する知見を修得する。
担当教員	*久山 佳代、*宇都宮 忠彦、*末光 正昌、中山 光子、*山本 泰、*山本 浩嗣、*田中 秀邦、*立花 寿人、*高田 隆、*豊澤 悟、宮内 睦美、*佐藤 由紀子、*阿部 洋太郎、*新崎 博文、*猪又 俊之、*及川 麻理子、*大石 善也、*太田 泰人、*木村 栄作、*黒子 光雄、*小泉 歩、*小泉 康之、*齋藤 隆明、齋藤 美雪、*坂田 一美、*紫垣 華子、*茂田 里恵、*白川 誠二、*鈴木 彰、*鈴木 慶洋、*玉城 吉夫、*中澤 啓介、*中島 十四夫、*中村 文彦、*西山 孝宏、*長谷川 一弘、*林 正人、*樋口 真弘、*二谷 悦子、*松村 由香、*三宅 正純、*村守 樹理、*メルニエイ マリア、*諸岡 均、*瀬戸 宏之セト ヒロユキ
教科書	病理・口腔病理学提要 日本大学松戸歯学部 病理学講座
参考図書	新口腔病理学 第3版 下野正基 / 高田隆 / 田沼順一 / 豊澤悟 医歯薬出版株式会社 病理学総論にもとづく口腔病理学 井上孝/田中昭男/長谷川博雅 永末書店 スタンダード口腔病態病理学第2版 槻木恵一 / 岡田康男 学建書院 口腔病理アトラス第3版 高木 實 文光堂
評価方法（EV）	1）講義の評価は、平常試験1（25%）、平常試験2（25%）、本試験（45%）および小テスト等（5%）の割合を目安とし、総合評価をもって60点以上を合格点とする。 2）実習の評価は、平常試験1（20%）、平常試験2（20%）、本試験（35%）、実習帳（20%）および小テスト等（5%）の割合を目安とし、総合評価をもって60点以上を合格点とする。また、受講態度についても評価の対象となりうる。 3）口腔病理学は1）と2）をともに満たした者を合格とする。 4）1）または2）のいずれか、もしくはともに不合格だった者には再試験を実施することがある。ただし、欠席数（正当な理由のない）が全体の1/5以上の者はこれによらない。 5）不合格者の評価は0-59点とする。
学生へのメッセージ オフィスアワー	病理学は基礎歯科医学から臨床歯科医学への橋渡しとなる学問です。病理学で培う知識は、病態理解から確定診断、そして治療方法の選択および予後の評価へと多くの科目を結びます。口腔病理学では、顎口腔領域に生じる疾患の理解が深まるよう新たなプログラムを展開します。口腔病理学の知識は、歯科医師国家試験突破に向けて大切な武器となります。前期に行った病理学の復習とともに予習を必ず行ってください。 歯科医師の実務経験を活かし、歯科医療に関する歴史および倫理、社会との関連について説明する。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/09/13（月） 2時限 10:40～12:10	口腔・頭蓋・口腔顎顔面領域の発育異常 歯の病変（歯の発育異常）	【授業の一般目標】 疾病は生体の機能や構造、あるいはその両者が正常範囲から逸脱した現象であり、その原因を「病因」、表出した状態を「病態」とする。種々の疾病を総合的に理解するためには病因・病態、ならびにそれらを結び付けている過程・経過における変化や現象（病変）を考究しなければならず、この理解をなくしては医療・歯科医療が成立しない。さらに、疾病を理解する思考は基礎医歯学から臨床医歯学への橋渡しとなる。したがって、本講義の一般目標は疾病の本態を理解するために、その成り立ちや理論を習得し、ひいては問題発見及び問題解決能力を身につける。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発育異常を説明できる。 3. 歯の病変（歯の発育異常）を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・口腔顎顔面の発生について解説できる。 ・奇形の分類について述べるができる。 ■事後学修（60分） ・先天異常に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/09/13 (月) 2時限 10:40～12:10	口腔・頭蓋・口腔 顎顔面領域の発育 異常 歯の病変（歯の発 育異常）	1 口腔・顎顔面の 発育を障害する先天異常 ア 口腔・顎顔面の先天異常 b 口唇裂・口蓋裂 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 1 口腔・顎顔面の 発育を障害する先天異常 ア 口腔・顎顔面の先天異常 a 顔面裂 2 歯の異常 イ 形態の異常 f Hutchinson歯、Fournier歯 i 異所性エナメル質 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ③口腔・顎顔面の成長・発育異常及び不正咬合へ及ぼす影響を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/09/13 (月) 3時限 13:10～14:40	口腔顎顔面領域の 嚢胞（非歯原性嚢 胞）	【授業の一般目標】 非歯原性嚢胞の成り立ちと生物学的意義について学習する。 【行動目標（SBOs）】 1. □以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 顎口腔領域の嚢胞及び嚢胞様病変の成因と分類を説明できる。 3. 顎骨に生じる非歯原性嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的 特徴について説明できる。 4. 軟組織に生じる非歯原性嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的 特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・嚢胞の定義について述べることができる。 ・嚢胞を分類することができる。 ・非歯原性嚢胞と歯原性嚢胞の違いを列挙できる。 ・軟組織に生じる嚢胞を列挙できる。 ・硬組織に生じる嚢胞を列挙できる。 ■事後学修（60分） ・嚢胞に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 立花 寿人
2021/09/13 (月) 4時限 14:50～16:20	口腔顎顔面領域の 非歯原性嚢胞（実 習）	【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域の嚢胞性疾患と発育異常について学習する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 嚢胞の分類について説明できる。 3. 顎骨に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的 特徴について説明できる。 4. 軟組織に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学 的特徴について説明できる。 5. 顎顔面領域の奇形の疾患について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・嚢胞の定義について述べることができる。 ・口腔顔面領域の発生について解説できる。 ・奇形の分類について述べることができる。 ■事後学修（60分） ・先天異常と嚢胞に関するドリル	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/09/13 (月) 4時限 14:50～16:20	口腔顎顔面領域の 非歯源性嚢胞（実 習）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯源性嚢胞 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。	白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユ キ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/09/27 (月) 2時限 10:40～12:10	齲 蝕	【授業の一般目標】 齲蝕について理解し説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 齲蝕の発生機序について解説できる。 3. 第二象牙質と修復象牙質(第三象牙質)について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) ・齲蝕の疫学的事項について説明できる。 ・齲蝕原性細菌や歯垢形成について説明できる。 ・歯の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修 (60分) ・う蝕に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齲蝕の病因 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ①歯の硬組織疾患（tooth wear（酸蝕症、咬耗、摩耗等）、歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む）の病因と病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/09/27 (月) 3時限 13:10～14:40	象牙質とセメント 質の増生及び吸収 歯の病変（歯の機 械的・化学的損傷、 歯の付着物と着色）	【授業の一般目標】 ・象牙質粒とセメント質粒について説明できる。 ・セメント質増殖症について説明できる。 ・歯の吸収について述べることができる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. セメント質増殖症について説明できる。 3. 歯の吸収について述べることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) ・齲蝕原性細菌や歯垢形成について説明できる。 ・歯の正常組織構造について解説できる。 ・歯を構成する硬組織に関連する疾患 ■事後学修 (60分) ・硬組織疾患に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/09/27 (月) 3時限 13:10～14:40	象牙質とセメント質の増生及び吸収 歯の病変（歯の機械的・化学的損傷、歯の付着物と着色）	1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齲蝕の病因 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ①歯の硬組織疾患（tooth wear（酸蝕症、咬耗、摩耗等）、歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む）の病因と病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/09/27 (月) 4時限 14:50～16:20	歯の硬組織の病変（実習）	【授業の一般目標】 齲蝕・象牙質・セメント質に関連した疾患を説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 齲蝕の病理学的特徴について解説できる。 3. 第二象牙質と修復象牙質（第三象牙質）について説明できる。 4. 象牙粒とセメント粒について解説できる。 5. セメント質増殖症について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・齲蝕の疫学的事項について説明できる。 ・齲蝕原性細菌や歯垢形成について説明できる。 ・歯の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修（60分） ・硬組織疾患に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齲蝕の病因 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ①歯の硬組織疾患（tooth wear（酸蝕症、咬耗、摩耗等）、歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む）の病因と病態を説明できる。 ③歯周疾患の病因と病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユキ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/10/11 (月) 2時限 10:40～12:10	歯髄の病変	【授業の一般目標】 歯髄炎について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯髄の退行性病変について解説できる。 3. 歯髄の進行性病変について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・退行性病変，進行性病変，循環障害及び炎症について説明できる。 ■事後学修（60分） ・歯髄疾患に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患 ア 歯髄疾患・根尖性 歯周疾患の病因と病態 a 歯髄疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/10/11 (月) 3時限 13:10～14:40	歯髄の病変	【授業の一般目標】 歯髄の退行性病変、進行性病変、循環障害を理解する。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	歯髄の病変	【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯髄の循環障害について述べるができる。 3. 歯髄炎の分類と病理学的特徴について解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・退行性病変，進行性病変，循環障害及び炎症について説明できる。 ■事後学修（60分） ・歯髄傷害に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患 ア 歯髄疾患・根尖性 歯周疾患の病因と病態 a 歯髄疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。	中山 光子
2021/10/11（月） 4時限 14:50～16:20	歯髄の病変（実習）	【授業の一般目標】 種々の歯髄疾患について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯髄の退行性病変について解説できる。 3. 歯髄の進行性病変について説明できる。 4. 歯髄の循環障害について述べるができる。 5. 歯髄炎の分類と病理学的特徴について解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・退行性病変，進行性病変，循環障害及び炎症について説明できる。 ■事後学修（60分） ・退行性病変に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患 ア 歯髄疾患・根尖性 歯周疾患の病因と病態 a 歯髄疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 康之 小泉 隆明 齋藤 美雪 齋藤 一美 坂田 由紀子 佐藤 華子 紫垣 里恵 茂田 誠二 白川 彰 鈴木 慶洋 鈴木 宏之セト ヒロユ キ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/10/18（月） 2時限 10:40～12:10	顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変	【授業の一般目標】 顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変について理解できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 顎骨骨髓炎の病理学的特徴について説明できる。 3. 顎・顎関節外傷の病理学的特徴について解説できる。 4. 顎関節炎の病理学的特徴について述べるができる。 5. 顎骨の遺伝性及び原因不明の疾患について説明できる。 6. 線維骨性病変を列挙できる。 7. 線維骨性病変の病理組織学的特徴について解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・顎骨の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修（60分） ・顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/10/18 (月) 2時限 10:40～12:10	顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変	webclass 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 3 0 1 教室、第2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 e 骨関連病変 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 a 歯槽骨炎、顎骨炎 b 顎骨骨膜炎 c 顎骨骨髓炎 e 放射線性骨壊死 f 薬剤関連顎骨疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)- (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/10/18 (月) 3時限 13:10～14:40	顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変	【授業の一般目標】 顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変について理解できる。 【行動目標（S B O s）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 線維骨性病変を列挙できる。 3. 顎骨骨髓炎の病理学的特徴について説明できる。 4. 顎・顎関節外傷の病理学的特徴について解説できる。 5. 顎関節炎の病理学的特徴について述べることができる。 6. 顎骨の遺伝性及び原因不明の疾患について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・顎骨の正常組織構造について解説できる。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 3 0 1 教室、第2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 b 顎骨骨膜炎 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 a 歯槽骨炎、顎骨炎 b 顎骨骨膜炎 e 放射線性骨壊死 f 薬剤関連顎骨疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)- (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 豊澤 悟
2021/10/18 (月) 4時限 14:50～16:20	顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変(実習)	【授業の一般目標】 顎及び顎関節の非腫瘍性病変及び腫瘍様病変について理解する。 【行動目標（S B O s）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 顎及び顎関節の非腫瘍性疾患及び腫瘍様病変の病理学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) ・顎骨の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修 (60分)	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/10/18 (月) 4時限 14:50～16:20	顎及び顎関節の非腫瘍性病変と腫瘍様病変(実習)	・顎及び顎関節の非腫瘍性病変及び腫瘍様病変に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（L S）】 実習 【場所（教室/実習室）】 3 0 1 教室、第2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 c 顎骨骨髓炎 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 a 歯槽骨炎、顎骨炎 b 顎骨骨膜炎 d 歯性上顎洞炎 e 放射線性骨壊死 f 薬剤関連顎骨疾患 g 外歯瘻、内歯瘻 h 顎骨周囲軟組織の炎症 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。	小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユキ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/10/25 (月) 2時限 10:40～12:10	根尖部歯周組織の病変	【授業の一般目標】 根尖病変について説明することができる。 【行動目標（S B O s）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 根尖病変の病因について説明できる。 3. 根尖性歯周炎の分類について解説できる。 4. 急性根尖性歯周炎の病理学的特徴について述べることができる。 5. 慢性根尖性歯周炎の病理学的特徴について説明できる。 6. 根尖病変の合併症について解説できる。 7. 歯性病巣感染について述べることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・炎症の病因や分類について解説できる。 ■事後学修（60分） ・根尖部歯周疾患に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 3 0 1 教室、第2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患 ア 歯髄疾患・根尖性 歯周疾患の病因と病態 b 根尖性歯周疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 田中 秀邦
2021/10/25 (月) 3時限 13:10～14:40	辺縁部歯周組織の病変	【授業の一般目標】 辺縁部歯周組織の病変について説明することができる。 【行動目標（S B O s）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯周病の病因について述べることができる。 3. 歯周病の病態について説明できる。 4. 歯周病の分類について解説できる。 5. 歯周病と全身疾患との関連について説明できる。 6. エプーリスについて説明することができる。 7. 咬合性外傷について説明することができる。 8. 歯肉増殖症について説明することができる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 宮内 睦美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/10/25 (月) 3時限 13:10～14:40	辺縁部歯周組織の 病変	【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) ・歯周組織の正常組織構造について説明できる。 ・炎症の病因と分類について解説できる。 ■事後学修 (60分) ・辺縁部歯周組織の病変に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ア 歯周疾患の病因と病態 c 歯周炎 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ③歯周疾患の病因と病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 宮内 睦美
2021/10/25 (月) 4時限 14:50～16:20	根尖部歯周組織及び 辺縁部歯周組織の 病変(実習)	【授業の一般目標】 根尖及び辺縁歯周組織の病変について説明することができる。 【行動目標 (SBOs)】 1.以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2.急性根尖性歯周炎の病理学的特徴について述べることができる。 3.慢性根尖性歯周炎の病理学的特徴について説明できる。 4.歯周病の病理学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) ・炎症の病因や分類について解説できる。 ■事後学修 (60分) ・炎症と歯周疾患に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略 (L S)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患 ア 歯髄疾患・根尖性 歯周疾患の病因と病態 b 根尖性歯周疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 陸明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユキ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/11/01 (月) 2時限 10:40～12:10	口腔粘膜の感染性 疾患	【授業の一般目標】 口腔粘膜感染症について十分に理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1.以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2.口腔粘膜感染症を分類できる。 3.口腔粘膜感染症の病理学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) ・口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修 (60分) ・口腔粘膜感染症に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/11/01（月） 2時限 10:40～12:10	口腔粘膜の感染性疾患	301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 j 口腔カンジダ症<鵝口瘡> 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 a ウイルス性口内炎 b 天疱瘡、類天疱瘡 g Behçet病 i 口腔扁平苔癬 k 白板症 l 紅板症 o 色素性母斑 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/01（月） 3時限 13:10～14:40	口腔粘膜の感染性疾患	【授業の一般目標】 口腔粘膜感染症について十分に理解する。 【行動目標（SBOs）】 1.以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2.口腔粘膜感染症を分類できる。 3.口腔粘膜感染症の病理学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修（60分） ・口腔粘膜感染疾患に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 j 口腔カンジダ症<鵝口瘡> 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/01（月） 4時限 14:50～16:20	口腔粘膜の感染性疾患（実習）	【授業の一般目標】 口腔粘膜感染症について十分に理解する。 【行動目標（SBOs）】 1.以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2.口腔粘膜感染症を分類できる。 3.口腔粘膜感染症の病理学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修（60分） ・に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユキ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/11/01 (月) 4時限 14:50～16:20	口腔粘膜の感染性疾患 (実習)	歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 j 口腔カンジダ症<鵝口瘡> 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。	立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/11/08 (月) 2時限 10:40～12:10	腫瘍総論	【授業の一般目標】 腫瘍について十分に理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 腫瘍の発生原因と組織発生 (多段階説) を説明できる。 3. 腫瘍の分類について説明できる。 4. 良・悪性腫瘍の肉眼的及び病理組織学的鑑別点について解説できる。 5. 非歯源性腫瘍を列挙できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) ・上皮性組織と非上皮性組織について説明できる。 ・腫瘍の定義を述べることができる。 ・細胞分裂周期と形態学的特徴について解説できる。 ■事後学修 (60分) ・腫瘍に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: あり webclass 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301 教室、第2 実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ク 腫瘍 a 概念 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ②腫瘍の病因を説明できる。 ③上皮異形成を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 メルニエイ マリア
2021/11/08 (月) 3時限 13:10～14:40	歯科医療と病理診断	【授業の一般目標】 種々の病理検査について理解できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 組織診について説明できる。 3. 細胞診について説明できる。 4. 術中迅速診断について説明できる。 5. 各種固定方法及び固定液について理解できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) ・病理検査とはなにか説明できる。 ■事後学修 (60分) ・病理検査に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301 教室、第2 実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 キ 病理学検査 b 組織診 【国家試験出題基準 (副)】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 *山本 泰

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/11/08 (月) 3時限 13:10～14:40	歯科医療と病理診断	必修の基本的事項 1 0 検査・臨床判断の基本 キ 病理学検査 a 細胞診 歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 イ 検体の採取・保存・確認 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 *山本 泰
2021/11/08 (月) 4時限 14:50～16:20	腫瘍・細胞診（実習）	【授業の一般目標】 腫瘍と細胞診について学習する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. スライドガラス標本を顕微鏡下で観察し診断することができる。 3. 擦過細胞診を実践することができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・準備学修項目：腫瘍の復習と細胞診の手技手法に関することを理解する。 ■事後学修（60分） ・腫瘍に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 細胞診に必要な器具・器材を用いた体験学習 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 イ 検体の採取・保存・確認 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユキ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/11/15 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験1（一般問題形式）	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（180分） ・これまでの授業内容を説明できる。 ■事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/15 (月) 3時限 13:10～14:40	平常試験1（顕微鏡や視覚素材を用いた問題形式）	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（180分） ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 ■事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/11/15 (月) 3時限 13:10～14:40	平常試験1(顕微鏡や視覚素材を用いた問題形式)		*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/15 (月) 4時限 14:50～16:20	解説講義	【授業の一般目標】 - 口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し、病理学的に説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 - 平常試験2の範囲の病変を分類できる。 - 平常試験2の範囲の病変を理解し、説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (180分) - これまでの実習内容を説明できる。 ■事後学修 (60分) - 試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/22 (月) 2時限 10:40～12:10	口腔の粘膜・皮膚疾患	【授業の一般目標】 口腔の粘膜皮膚疾患について解説できる。 【行動目標 (SBOs)】 - 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 - 口腔粘膜の自己免疫疾患について説明できる。 - 口腔粘膜の退行性病変について説明できる。 - 全身性病変の一部症状としての口腔粘膜病変を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) - 口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修 (60分) - に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 b 天疱瘡、類天疱瘡 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/22 (月) 3時限 13:10～14:40	口腔顎顔面領域に症状を現す全身性疾患	【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域に症状を現す全身性疾患について説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 - 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 - 代謝異常により口腔内に症状を現す疾患を説明できる。 - 内分泌異常により口腔内に症状を現す疾患を説明できる。 - 顎骨病変を現す骨系統疾患を説明できる。 - 歯・顎骨の病変を主徴候とする症候群を説明できる。 - 口腔軟組織の病変を主徴候とする症候群を説明できる。 - 血液および血管病変を主徴とするものを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修 (30分) - 口腔が関係する全身性疾患について列挙できる。 ■事後学修 (60分) - に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/11/22 (月) 3時限 13:10～14:40	口腔顎顔面領域に 症状を現す全身性 疾患	3 0 1 教室、第 2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1 0) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ④口腔・顎顔面領域に症状を現す全身的な腫瘍と腫瘍類似疾患及びその症状を 列挙できる ⑤口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/22 (月) 4時限 14:50～16:20	口腔の粘膜・皮膚 疾患（実習）	【授業の一般目標】 口腔の粘膜・皮膚疾患について解説できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔粘膜の自己免疫疾患について解説できる。 3. 全身性病変の一部分症状としての口腔粘膜病変を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・口腔粘膜の正常組織構造について解説できる。 ■事後学修（60分） ・口腔粘膜疾患に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 3 0 1 教室、第 2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 b 天疱瘡、類天疱瘡 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 g Behçet病 i 口腔扁平苔癬 p von Recklinghausen病<神経線維腫症Ⅰ型> 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の 症状と治療法を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユ ギ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/11/29 (月) 2時限 10:40～12:10	唾液腺の非腫瘍性 病変	【授業の一般目標】 唾液腺に発生する非腫瘍性病変について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 唾石症について説明できる。 3. シェーグレン症候群について説明できる。 4. 種々の唾液腺の炎症性病変について説明できる。 5. 唾液腺に関連する嚢胞性病変について説明できる。 6. 唾液腺の発育異常について述べることができる。 7. 唾液腺の退行性病変について説明できる。 8. 唾液腺の化生性変化について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・唾液腺の基本構造、解剖学的事項、唾液の成分や働きについて理解しておく。 ・先天異常、退行性病変、進行性病変及び炎症について解説できる。 ■事後学修（60分） ・唾液腺疾患に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/11/29 (月) 2時限 10:40～12:10	唾液腺の非腫瘍性病変	3 0 1 教室、第 2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態 e Sjögren症候群 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態 b 異所性唾液腺 d 唾液腺炎、唾液管炎 f 粘液嚢胞 j IgG4関連疾患 k 唾石症 l 口腔乾燥症 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ②唾石症の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ③唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤腫瘍類似疾患を概説できる。 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑦Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/29 (月) 3時限 13:10～14:40	口腔の加齢変化 遺伝子と疾患	【授業の一般目標】 口腔に見られる加齢変化と加齢に伴う口腔病変について十分に理解する。 疾患に関係する遺伝子異常を理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔軟組織の加齢変化について説明できる。 3. 歯・歯髄・歯周組織・顎骨の加齢変化について解説できる。 4. 唾液腺の加齢変化について説明できる。 5. 腫瘍と遺伝子変異との関係を説明できる。 6. 先天異常と遺伝子変異との関係を説明できる。 7. 遺伝子異常を同定する検査法を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ☐事前学修（30分） ・退行性病変について説明できる。 ☒事後学修（60分） ・退行性病変に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 3 0 1 教室、第 2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 8 人体の成長・発達・加齢 エ 加齢・老化による口腔・顎顔面の変化 a 器質的变化 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 8 人体の成長・発達・加齢 エ 加齢・老化による口腔・顎顔面の変化 b 機能的変化 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ④口腔・顎顔面領域の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/11/29 (月) 4時限 14:50～16:20	スライドカンファ ランス①	【授業の一般目標】 嚢胞、硬組織疾患、根尖部及び辺縁部歯周組織の疾患、粘膜疾患等について確定診断に至ることができる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. スライドガラス標本と臨床所見から確定診断に至ることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ☐事前学修（180分） ・これまでの実習内容を説明できる。 ☒事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・スライドガラス標本鏡検と臨床所見を鑑みたブレインストーミングによる診	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 陸明 齋藤 美雪

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/11/29 (月) 4時限 14:50～16:20	スライドカンファ ランス①	断の確定 ・ポインティングデバイスを併用したリアルタイムフィードバックとオポチュ ニティの平均化 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユ キ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/12/06 (月) 2時限 10:40～12:10	唾液腺腫瘍	【授業の一般目標】 ・良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 ・悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を解説できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 3. 悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・唾液腺の正常構造と機能について解説できる。 ・唾液腺腫瘍を列举できる。 ■事後学修（60分） ・唾液腺腫瘍に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態 g 良性腫瘍 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態 h 悪性腫瘍 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	＊久山 佳代 ＊宇都宮 忠彦 ＊末光 正昌 中山 光子
2021/12/06 (月) 3時限 13:10～14:40	唾液腺腫瘍	【授業の一般目標】 良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 3. 悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類及び病態を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・唾液腺の正常構造と機能について説明できる。 ・唾液腺腫瘍を列举できる。 ■事後学修（60分） ・唾液腺腫瘍に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（LS）】 講義	＊久山 佳代 ＊宇都宮 忠彦 ＊末光 正昌 中山 光子 佐藤 由紀子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/12/06 (月) 3時限 13:10～14:40	唾液腺腫瘍	【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 佐藤 由紀子
2021/12/06 (月) 4時限 14:50～16:20	唾液腺腫瘍(実習)	【授業の一般目標】 ・良性唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴を説明できる。 ・悪性唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴を解説できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 良性唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴を説明できる。 3. 悪性唾液腺腫瘍の病理組織学的特徴を解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・唾液腺の正常構造と機能について解説できる。 ・唾液腺腫瘍を列挙できる。 ■事後学修（60分） ・唾液腺腫瘍に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態 g 良性腫瘍 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態 h 悪性腫瘍 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユキ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2021/12/13 (月) 2時限 10:40～12:10	歯原性腫瘍	【授業の一般目標】 ・各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生及び病理組織学的特徴について述べることができる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生について述べることができる。 3. 各種歯原性腫瘍の病理組織学的特徴について述べることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・歯の発生と組織学的特徴について解説できる。 ・歯原性腫瘍を列挙できる。 ■事後学修（60分） ・歯原性腫瘍に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 b 歯原性悪性腫瘍	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 高田 隆

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/12/13 (月) 2時限 10:40～12:10	歯原性腫瘍	【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 高田 隆
2021/12/13 (月) 3時限 13:10～14:40	歯原性腫瘍	【授業の一般目標】 ・各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢、性別発生及び病理組織学的特徴について述べることができる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生について述べることができる。 3. 各種歯原性腫瘍の病理組織学的特徴について述べることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・歯の発生と組織学的特徴について解説できる。 ・歯原性腫瘍を列挙できる。 ■事後学修（60分） ・歯原性腫瘍に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 b 歯原性悪性腫瘍 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/12/13 (月) 4時限 14:50～16:20	歯原性腫瘍(実習)	【授業の一般目標】 ・各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生及び病理組織学的特徴について述べることができる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 各種歯原性腫瘍の好発部位・年齢・性別・発生について述べることができる。 3. 各種歯原性腫瘍の病理組織学的特徴について述べることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・歯の発生と組織学的特徴について解説できる。 ・歯原性腫瘍を列挙できる。 ■事後学修（60分） ・歯原性腫瘍に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 b 歯原性悪性腫瘍 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユキ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/12/13 (月) 4時限 14:50～16:20	歯源性腫瘍(実習)	E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。	山本 浩嗣
2021/12/20 (月) 2時限 10:40～12:10	非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変 口腔粘膜および口腔軟組織の腫瘍	【授業の一般目標】 口腔領域に発生する非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変について理解する。 口腔粘膜および口腔軟組織の腫瘍について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔粘膜の上皮性腫瘍の病因・病態について説明できる。 3. 口腔軟組織及び顎骨に発生する非上皮性腫瘍の病因・病態について解説できる。 4. 顎骨の転移性腫瘍の病理学的特徴について述べることができる。 5. 口腔粘膜の前癌病変と前癌状態について説明できる。 6. エプーリスの病理学的特徴について解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・口腔粘膜の正常組織構築について解説できる。 ・腫瘍の定義を述べるができる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別点について説明できる。 ・腫瘍発生の諸段階について解説できる。 ・悪性腫瘍の転移様式について説明できる。 ■事後学修（60分） ・口腔の非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり webclass 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 n 前癌病変、前癌状態 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 o 腫瘍類似疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。 ⑥前癌状態の種類と特徴を列挙できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/12/20 (月) 3時限 13:10～14:40	非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変 口腔粘膜および口腔軟組織の腫瘍	【授業の一般目標】 口腔領域に発生する非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変について理解する。 口腔粘膜および口腔軟組織の腫瘍について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔粘膜の上皮性腫瘍の病因・病態について説明できる。 3. 口腔軟組織及び顎骨に発生する非上皮性腫瘍の病因・病態について解説できる。 4. 顎骨の転移性腫瘍の病理学的特徴について述べることができる。 5. 口腔粘膜の前癌病変と前癌状態について説明できる。 6. エプーリスの病理学的特徴について解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・口腔粘膜の正常組織構築について解説できる。 ・腫瘍の定義を述べることができる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別点について説明できる。 ・腫瘍発生の諸段階について解説できる。 ・悪性腫瘍の転移様式について説明できる。 ■事後学修（60分） ・口腔の非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（LS）】 講義	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2021/12/20 (月) 3時限 13:10～14:40	非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変 口腔粘膜および口腔軟組織の腫瘍	【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 b 非歯源性良性腫瘍 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 n 前癌病変、前癌状態 o 腫瘍類似疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。 ⑥前癌状態の種類と特徴を列挙できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2021/12/20 (月) 4時限 14:50～16:20	非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変 口腔粘膜および口腔軟組織の腫瘍（実習）	【授業の一般目標】 口腔領域に発生する非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変について理解する。 口腔粘膜および口腔軟組織の腫瘍について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔発生する上皮性及び非上皮性腫瘍の病理学的特徴について解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・口腔粘膜の正常組織構築について解説できる。 ・腫瘍の定義を述べることができる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別点について説明できる。 ・腫瘍発生の諸段階について解説できる。 ・悪性腫瘍の転移様式について説明できる。 ■事後学修（60分） ・口腔の非歯源性腫瘍及び腫瘍様病変に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり 顕微鏡、webclass及びレスポンスデバイスを使用 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 非歯源性良性腫瘍 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 陸明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユキ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2022/01/14 (金) 2時限 10:40～12:10	口腔疾患の治療に伴う病理学的変化	【授業の一般目標】 口腔疾患の治療に伴う病理学的変化について説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯髄組織に伴う病理組織変化について説明できる。 3. 抜歯創の治癒と合併症について解説できる。 4. 歯の破折の治癒に関する病理学的特徴について述べることができる。 5. 顎骨骨折と骨移植後の治癒に関する病理学的特徴について説明できる。 6. 歯の移植と再植の病理学的特徴について解説できる。 7. インプラントの病理学的特徴について述べることができる。 8. 矯正治療に伴う病理学的変化について説明できる。 9. 再生医療に関する基礎的な病理学的事項について解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・歯・歯髄・歯周組織・口腔粘膜における病変の病理学的特徴について解説できる。 ■事後学修（60分） ・口腔疾患の治療に伴う病理学的変化に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/01/14 (金) 2時限 10:40～12:10	口腔疾患の治療に伴う病理学的変化	webclass 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 3 0 1 教室、第2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 イ 歯の喪失に伴う口腔・顎・顔面の変化 a 口腔の変化 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2022/01/14 (金) 3時限 13:10～14:40	顎口腔領域の嚢胞（歯源性嚢胞）	【授業の一般目標】 顎口腔領域の嚢胞（歯源性嚢胞）の成り立ちと生物学的意義について学習する。 【行動目標（S B O s）】 1. □以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 顎骨に生じる歯源性嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的 特徴について説明できる。 3. 軟組織に生じる歯源性嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的 特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・嚢胞の定義について述べるができる。 ・嚢胞を分類することができる。 ■事後学修（60分） ・嚢胞に関するドリル 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 3 0 1 教室、第2 実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯源性嚢胞 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 b 非歯源性嚢胞 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 b 非歯源性嚢胞 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 立花 寿人
2022/01/14 (金) 4時限 14:50～16:20	スライドカンファレンス②	【授業の一般目標】 非歯源性腫瘍、歯源性腫瘍、唾液腺腫瘍、細胞診等につて臨床所見とスライドガラス標本より確定診断に至ることができる。 【行動目標（S B O s）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 病変の所見を的確にとることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・今までに学習してきた疾患について理解する。 ■事後学修（60分） ・スライドカンファレンス症例に関する不明点について学修する。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・スライドガラス標本鏡検と臨床所見を鑑みたブレインストーミングによる診断の確定 ・ポインティングデバイスを併用したリアルタイムフィードバックとオポチュニティの平均化 【学修方略（L S）】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子 阿部 洋太郎 新崎 博文 猪又 俊之 及川 麻理子 大石 善也 太田 泰人 木村 栄作 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 齋藤 美雪 坂田 一美 佐藤 由紀子 紫垣 華子 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/01/14 (金) 4時限 14:50～16:20	スライドカンファ レンス②	講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	鈴木 慶洋 瀬戸 宏之セト ヒロユ キ 立花 寿人 田中 秀邦 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 長谷川 一弘 林 正人 樋口 真弘 二谷 悦子 松村 由香 村守 樹理 三宅 正純 メルニエイ マリア 諸岡 均 山本 浩嗣
2022/01/17 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験2（一般 問題形式）	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ☐ 事前学修（30分） ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 ☒ 事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2022/01/17 (月) 3時限 13:10～14:40	平常試験2（顕微 鏡や視覚素材を用 いた問題形式）	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し，病理学的に説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ☐ 事前学修（180分） ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し，病理学的に説明できる。 ☒ 事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2022/01/17 (月) 4時限 14:50～16:20	解説講義	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し，病理学的に説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 平常試験2の範囲の病変を分類できる。 2. 平常試験2の範囲の病変を理解し，説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ☐ 事前学修（30分） ・口腔顎顔面領域の代表的疾患について診断し，病理学的に説明できる。 ☒ 事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/01/17 (月) 4時限 14:50～16:20	解説講義	該当なし 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2022/01/24 (月) 2時限 10:40～12:10	本試験(一般問題形式)	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（30分） ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 ■事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2022/01/24 (月) 3時限 13:10～14:40	本試験(顕微鏡や視覚素材を用いた問題形式)	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（180分） ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 ■事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子
2022/01/24 (月) 4時限 14:50～16:20	解説講義	【授業の一般目標】 ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 口腔病変を分類できる。 3. 口腔病変を理解し、説明できる。 4. 口腔病変を正しく診断できる。 5. 病理検査方法を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 □事前学修（180分） ・口腔顎顔面領域の疾患を整理・理解し，理論的に説明できる。 ■事後学修（60分） ・試験項目及び関連項目について不明な点を学修する。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 301教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 中山 光子